

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	08	02	02	184040	生活道路維持事業費		
総合計画	分野	02 暮らし		政策	02 生活基盤の充実		
	施策	01 道路環境の充実					
目的	生活道路を安全に安心して通行できるようにするため、維持修繕（舗装の打ち換え、オーバーレイ等）及び除排雪を行う。						
対象	道路利用者						
意図	安全で快適な通行を確保する						
事業概要	市道の維持管理 1,195,954千円 市道の維持工事（繰越明許費） 65,209千円 市道の維持工事 107,012千円 除雪機械の購入 27,392千円						
市民参加の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04	
1	当該年度の舗装修繕件数	件	計画	17.00	17.00		
			実績	35.00	45.00		
2	当該年度の補修件数	件	計画	250.00	250.00		
			実績	311.00	337.00		
3	当該年度の除雪回数	回	計画	10.00	10.00		
			実績	12.00	13.00		
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04	
1	当該年度の舗装修繕延長	m	目標	7,000.00	7,000.00		
			実績	7,853.00	7,394.00		
2	市の瑕疵による事故件数	件	目標	0.00	0.00		
			実績	0.00	1.00		
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
舗装修繕は概ね目標通りの結果であった。補修件数は冬期間に気温が低い日が多く、凍害による舗装の破損が増えた影響が表れていることから、目標を上回る結果であった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市道の維持補修は道路管理者である市が行うものであり、その唯一の事業である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	舗装などの破損箇所は道路パトロールや要望により連日発見されているが全てに対応出来ない状況である。このことから、道路パトロールによる早期発見と早期補修に努めることで成果向上に繋がる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	道路施設の劣化は進行することから、安全確保に必要な維持事業費の削減余地は無い。また、補修箇所の早期対応のため、道路パトロールや苦情処理等を迅速且つ確実に行うための直営体制強化が望まれることから、人件費の削減余地は無い。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	不特定多数が利用する市道の維持補修を行う事業であるため、受益者は公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	計画的に舗装修繕を行うため、早期発注を実施したことにより目標延長を達成することができた。道路に起因する事故が1件発生したため道路パトロールの強化により早期発見に努めたい。
	次年度に向けて	良好な道路の維持管理を継続していくために、道路パトロールの強化、現地確認及び補修・苦情処理等への迅速な対応を実施する体制を確保していく必要がある。

令和3年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	01	184050	道の駅「はなまき西南」駐車場整備事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	道の駅を核とした地域の連携強化を図り、道路利用者に安全で快適な交通環境を提供するため、西南地区へ整備した道の駅に臨時駐車場を整備する。					
対象	西南地域（笹間・太田地区）					
意図	道の駅はなまき西南利用者が想定より多く、ガソリンスタンド予定地を臨時駐車場として使用しているが、ガソリンスタンドの出店が決まったため新たに臨時駐車場を整備する。					
事業概要	駐車場整備等業務委託	26,682,150円				
	用地取得	5,656,110円				
市民参画の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1			計画			
			実績			
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
道の駅はなまき西南に臨時駐車場を整備する事業であり、成果指標の設定がなじまないため。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	公共施設である道の駅はなまき西南地域振興施設の臨時駐車場整備であり妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	道の駅はなまき西南の利用者のための臨時駐車場整備の整備が終わり現在使用している。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	整備にかかる委託料及び用地取得費であり削減余地がない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	公共施設であり、不特定多数が利用する道の駅であるため適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	道の駅利用者が多く駐車場が不足していることから、臨時駐車場を整備し利便性を高めた。
	次年度に向けて	

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	03	184070	生活道路整備事業費	
総合計画	分野	02 暮らし		政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01 道路環境の充実				
目的	安全で快適に通行できる道路網を構築するため、各コミュニティ地区の土木施設整備要望に沿って、市道の道路改良、現道舗装、側溝整備、雪寒対策を行う。					
対象	道路利用者、市民					
意図	安全で快適な通行の確保を図る					
事業概要	生活道路整備事業（繰越明許費）570,753千円 生活道路整備事業 1,035,743千円					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	道路改良事業実施路線	路線	計画	38.00	34.00	
			実績	33.00	30.00	
2	舗装新設事業実施路線	路線	計画	4.00	5.00	
			実績	4.00	10.00	
3	側溝整備事業実施路線	路線	計画	12.00	13.00	
			実績	12.00	13.00	
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	道路改良整備（完成）延長	km	目標	2.90	4.50	
			実績	1.30	4.90	
2	舗装新設整備（完成）延長	km	目標	0.50	1.40	
			実績	0.70	2.70	
3	側溝整備（完成）延長	km	目標	1.20	1.60	
			実績	1.20	1.30	
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
地域要望において対策が必要な箇所、完成路線、事業費等を検討し、事業実施件数、整備延長を決定している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	市道の道路改良、舗装新設、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望の道路環境を満足された水準となることから、さらなる向上は難しい。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業を実施する上で、計画から工事監督業務まで多岐にわたるが、現在でも効率的な事業執行に努めている。また、外部委託を行うなど人件費の削減に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・用地買収の難航や支障物件の影響等のため、一部の事業で目標値に達しないものがあった。今後は、事業費や工程等の事業計画を随時見直ししながら効率的に事業を遂行する必要がある。
	次年度に向けて	・道路整備に対する要望が多数寄せられていることから、継続的な整備が必要である。

令和3年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	03	184090	花巻スマートインターチェンジ整備事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	高速道路の利便性を向上させ、産業振興等を図るため、東北縦貫自動車道花巻パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備する。					
対象	高速道路利用者					
意図	花巻パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備する					
事業概要	花巻スマートインターチェンジ整備事業（繰越明許費） 114,070千円 花巻スマートインターチェンジ整備事業 20,169千円					
市民参画の有無	無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	地区協議会	回	計画	1.00	1.00	
			実績	0.00		
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
地区協議会は事業の進捗状況を見ながら事業者間で必要性を協議のうえ実施するため、事前に設定をすることが困難である。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	道路利用者の利便性、道路環境の向上、地域振興の観点で公共が関与することは妥当と認められる。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	スマートインターチェンジの整備には、ある程度の地域醸成も必要である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最低限の経費で整備を目指している。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	道路は公共財であるため公平性は確保されている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	事業は概ね予定どおり進捗している。
	次年度に向けて	工事が本格的に実施されることから、より一層、事業者間の連絡調整を密に行い、円滑に事業を進めていく必要がある。

令和3年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	04	184100	橋梁維持事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	交通の安全を確保するとともに橋梁の長寿命化を図るため、花巻市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期に対策すべき橋梁を優先して修繕する。					
対象	道路利用者、市民、修繕が必要な橋梁					
意図	橋梁修繕により、市内を安全で快適に移動できる。					
事業概要	橋梁維持事業（繰越明許費）27,902千円 橋梁維持事業 420,732千円					
市民参加の有無	無し					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	修繕橋梁数	橋	計画	10.00	3.00	
			実績	12.00	3.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	修繕対象橋梁修繕率(R1～R5:全71橋)	%	目標	24.00	28.00	
			実績	25.00	28.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
R2年度より修繕対象橋梁数を追加実施（R1年度の橋梁長寿命化修繕計画の見直しによる） 耐用年数により修繕対象橋梁数が年々追加されていく状況。修繕の必要な橋梁から、修繕を随時進める。 H30年度迄 対象橋梁26橋 R1年度から 対象橋梁71橋 R3年度、国費内示による4月追加補正にて修繕実施橋梁数を増やすことができた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である橋梁の修繕なので妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・前年度に橋梁修繕内容の調査設計を実施し、補修内容や予算について精度をあげている。
	向上余地がある	・公共物の老朽化は年々進むものであり、現在の取り組みを維持し、継続的に修繕事業を進める必要があることから、更なる成果の向上は困難である。
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・前年度に個々の橋梁修繕内容について調査設計を実施。
	事業費の削減余地がある	・それにより適正な補修方法、内容を検討。
	人件費の削減余地がある	・あわせてコスト縮減についても検討。
	どちらも削減余地がない	・積算、施工管理に係る事務経費の適正な執行に必要な最低限の事務を行っている。
公平性	受益と負担の適正化余地	・公共施設であり、不特定多数が利用する橋梁の補修であることから、受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期対策の必要な橋梁を優先して修繕している。 ・個々の橋梁修繕については、前年度に調査設計を実施し、内容の精度を上げて事業費削減等に努めている。
	次年度に向けて	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき早期対策の必要な橋梁を優先して修繕を実施する。 ・調査設計により、修繕内容の精度を上げて事業費削減に努める。

令和3年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	08	02	05	184160	交通安全環境整備事業費		
総合計画	分野	02 暮らし		政策	02 生活基盤の充実		
	施策	01 道路環境の充実					
目的	道路利用者の交通安全環境の向上を図るため、歩道の設置、歩道の段差解消等の整備を行う。						
対象	道路利用者、市民						
意図	安全・安心な歩行空間の確保を図る						
事業概要	交通安全環境整備事業（線越明許費） 63,426千円 交通安全環境整備事業 124,651千円						
市民参加の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04	
1	当該年度歩道整備事業実施件数	件	計画	6.00	7.00		
			実績	5.00	7.00		
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04	
1	歩道整備（完成）延長	km	目標	0.30	0.30		
			実績	0.40	0.10		
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
交通安全プログラムによる通学路において児童の安全歩行が必要な箇所、完成路線、事業費等を検討し、事業実施件数、歩道整備延長を決定している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	現況の道路敷地内で有効的に、かつ交付金事業を活用しながら歩道整備を実施しており、予算内でのさらなる向上は困難である。今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	歩道段差解消は、現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して節減に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・事業実施件数は計画どおりに実施できたが、整備延長については目標値に達しなかった。今後は、事業費や工程等の事業計画を随時見直しながら効率的に事業を遂行する必要がある。
	次年度に向けて	・現況道路敷地内での土地有効活用等、工夫をしてコスト縮減に努めながら歩道整備を実施する。